



平成 27 年 3 月期 第 1 四半期決算短信（非連結）

平成 26 年 8 月 27 日

会 社 名 マイコロジーテクノ株式会社

グリーンシート銘柄

コード番号 3145

本社所在都道府県 新潟県

本社所在地 新潟県新潟市東区山木戸八丁目 4 番 8 号

問い合わせ先 責任者役職名 代表取締役社長

氏 名 津野 芳彰

T E L (025)250-7335

1. 平成 27 年 3 月期第 1 四半期の業績（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日）

(注) 1. 本四半期決算短信の数値は、未監査です。

2. 千円未満は切り捨てて表示しております。

(1) 経営成績

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益	
	千円	%	千円	%	千円	%
27 年第 1 四半期	4,219	(54.5)	△15,122	(-)	△15,590	(-)
26 年第 1 四半期	7,736	(122.3)	△10,870	(-)	△11,702	(-)

	当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総 資 産 経常利益率	売 上 高 経常利益率
	千円 %	円 銭	円 銭	%	%	%
27 年第 1 四半期	△15,590 (-)	△202 25	- -	-	△24.0	△369.5
26 年第 1 四半期	△11,702 (-)	△156 27	- -	△139.3	△11.4	△151.3

(注) 1. 期中平均株式数 27 年第 1 四半期 77,085 株 26 年第 1 四半期 74,885 株

2. 会計処理の方法の変更 有 ・ (無)

3. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株 当 たり 純 資 産
	千円	千円	%	円 銭
27 年第 1 四半期	66,049	△13,391	△20.3	△173 72
26 年第 1 四半期	83,350	2,549	3.1	34 00

(注) 期末発行済株式数 27 年第 1 四半期 77,085 株 26 年第 1 四半期 74,885 株

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	千円	千円	千円	千円
27年第1四半期	△25,418	△54	24,000	4,196
26年第1四半期	△13,184	2,242	20,000	8,314

2. 平成27年3月期の業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金（円）				
				第1四半期	中間期末	第3四半期	期末	年間
通 期	千円 57,210	千円 △53,359	千円 △53,359	—	—	—	0	0

（参考）1株当たり予想当期純損失（通期）692円 21銭

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

平成 26 年 8 月 27 日

第 12 期 第 1 四半期報告書

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 26 年 6 月 30 日まで)

会社名 (定款上の商号)	マイコロジーテクノ株式会社
英 文 名	MYCOLOGY TECHNO. CORP.
コ ー ド 番 号	3145
代表者の役職氏名	代表取締役 津野 芳彰
本店の所在の場所	新潟県新潟市東区山木戸八丁目 4 番 8 号
電 話 番 号	025-250-7335
連 絡 者	代表取締役 津野 芳彰

I 四半期の業績

(1) 損益計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	第 12 期 第 1 四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日
		金 額	金 額	金 額
I 売上高		4,219	4,219	7,736
II 売上原価		△642	△642	3,069
売上総利益		4,861	4,861	4,666
III 販売費及び一般管理費		19,983	19,983	15,537
営業損失		15,122	15,122	10,870
IV 営業外収益		185	185	285
V 営業外費用		653	653	1,116
経常損失		15,590	15,590	11,702
税引前四半期(当期)純損失		15,590	15,590	11,702
法人税、住民税及び事業税		-	-	-
四半期(当期)純損失		15,590	15,590	11,702

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注)

科 目	期 別	第 12 期 第 1 四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日
期 中 平 均 株 式 数		77,085 株	77,085 株	74,885 株
1 株 当 たり 四 半 期 (当 期) 純損失		202 円 25 銭	202 円 25 銭	156 円 27 銭
潜在株式調整後 1 株 当 たり 四 半 期 (当 期) 純利益		-	-	-

(注) 潜在株式調整後 1 株 当 たり 四 半 期 (当 期) 純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 事業部門別売上高

(単位：千円)

事業の種類	期 別	第 12 期 第 1 四半期	当期累計	前年同期累計
		自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日	自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 6 月 30 日
マイコロジー事業		—	—	—
健康食品販売事業		4,219	4,219	7,736
合 計		4,219	4,219	7,736

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	期 別	第11期末	第12期第1四半期
		平成26年3月31日現在	平成 26 年 6 月 30 日現在
		金 額	金 額
(資産の部)			
I	流動資産		
	1. 現金預金	5,668	4,196
	2. 売掛金	21,890	11,190
	3. 製 品	8,100	8,005
	4. 半製品	4,179	7,197
	5. 原材料	4,024	4,680
	6. 仕掛品	19,664	29,549
	7. 前払費用	652	652
	8. 未収入金	170	70
	9. その他	△3,667	△2,499
	流動資産合計	60,684	63,043
II	固定資産		
	1. 有形固定資産		
	工具器具備品	79	67
	有形固定資産合計	79	67
	2. 投資その他の資産		
	敷 金	2,849	2,849
	長期前払費用	112	89
	投資その他の資産合計	2,961	2,939
	固定資産合計	3,040	3,006
	資産合計	63,725	66,049

(単位：千円)

科 目	期 別	第11期末	第12期第1四半期
		平成26年3月31日現在	平成 26 年 6 月 30 日現在
		金 額	金 額
	(負債の部)		
I	流動負債		
1.	買掛金	8,589	1,300
2.	短期借入金	49,000	73,000
3.	未払金	2,164	3,570
4.	未払費用	-	653
5.	未払法人税等	1,398	-
6.	預り金	374	916
	流動負債計	61,526	79,440
	負債合計	61,526	79,440
	(純資産の部)		
II	株主資本		
1.	資本金	410,124	410,124
2.	資本剰余金		
	資本準備金	358,124	358,124
	資本剰余金合計	358,124	358,124
3.	利益剰余金		
	その他利益剰余金		
	繰越利益剰余金	△766,049	△781,639
	利益剰余金合計	△766,049	△781,639
	株主資本合計	2,198	△13,391
	純資産合計	2,198	△13,391
	負債・純資産合計	63,725	66,049

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(注)

科 目	期 別	第11期末	第12期第1四半期
		平成26年3月31日現在	平成 26 年 6 月 30 日現在
発 行 済 株 式 数		77,085 株	77,085 株
1 株 当 たり 純 資 産 額		28 円 52 銭	△173 円 72 銭

(4) 株主資本等変動計算書

当事業年度（自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日）

(単位：千円)

項 目	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計		
平成 26 年 4 月 1 日残高	410,124	358,124	358,124	△766,049	△766,049	2,198	2,198
第 1 四半期中の変動額							
四半期純損失	-	-	-	△15,590	△15,590	△15,590	△15,590
第 1 四半期中の変動額合計	-	-	-	△15,590	△15,590	△15,590	△15,590
平成 26 年 6 月 30 日残高	410,124	358,124	358,124	△781,639	△781,639	△13,391	△13,391

(5) 貸借対照表及び損益計算書の作成の基本となる事項

四半期貸借対照表及び損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している会計方針は「会社内容説明書 第5【経理の状況】 1【計算書類等】 (4)【個別注記表】 ①重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照下さい。

事業年度の貸借対照表及び損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則及び手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

1. 固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生見積額の4分の1に該当する金額を計上しております。
--

2. 消費税等の会計処理

仮払消費税等及び仮受消費税等を相殺し、未収入金として計上しております。

なお、当該四半期の貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書については、会計監査を受けておりません。

(6) 会計方針の変更

該当事項はありません。

II 第12期第1四半期の業績の概況（平成26年4月1日から平成26年6月30日）

当第1四半期におけるわが国経済は、中国経済の成長鈍化など海外需要の悪化などの懸念材料がある中、原油・素材価格の高騰や電気料金の値上げ、人手不足による労務費上昇などにより先行き不透明ですが、大企業を中心に設備投資が増加して徐々に回復のきざしがある状況で推移しています。

加速する高齢化社会で、健康食品が国民の健康維持の一助になっていることが認知されるようになり、健康食品の表示について規制緩和が予定されています。越後白雪茸は、多くの研究機関で得られたエビデンスを蓄積しているため、今後の成長が期待できる素材として話題に上るようになってきました。

弊社は、サーチュイン遺伝子を発現して傷ついた遺伝子を修復すると言われているレスベラトロールを加えた越後白雪茸製品「蘇りレスベラ」が多くの方々から評価を得て、売上を伸ばしています。全国に販売チャネルのある取引先から依頼を受けて蘇りレスベラを粉体にした商品も開発中です。

越後白雪茸製品のOEM「バシックス」は、全国で説明会を開いて販路を拡大しています。この期にも受注して生産をしていますが、納品が8月のため次の四半期の売上予定です。

また栄養補給用のドリンクとして、生ローヤルゼリーと越後白雪茸エキスを合わせた栄養ドリンク「アルビタ」を平成26年1月15日に販売開始しました。手軽に飲めることと、従来の製品に比べて廉価であることから引き合いも多く、今年度の好転材料として営業強化しています。

その他に、各種研究会や学会で試飲説明会を行うなど、越後白雪茸の認知度を向上させるための活動を広く行い、売上向上に努めています。

また、生産の安定化をはかるため、大手茸生産会社へ生産委託しています。さらに新潟県北部の森林組合との共同で生産をはじめ、栽培技術向上と増産を目指しています。

しかし、まだ目標値を超えるまでの売上の伸びはありませんでした。

以上の結果、当四半期の業績は、売上高4,219千円（前年同期比 54.5%減）、営業損失15,122千円（前年同期 営業損失10,870千円）、経常損失15,590千円（前年同期 経常損失11,702千円）、四半期純損失15,590千円（前年同期 四半期純損失11,702千円）となりました。

III 第12期通期の売上高及び利益の予測について

（単位：千円）

科 目	期 別	第11期（実績）	第12期（予測）
		自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売 上 高		48,261	57,210
営業利益又は損失（△）		△68,582	△51,199
経常利益又は損失（△）		△71,322	△53,359
当期純利益又は損失（△）		△71,892	△53,359

IV 資金及び借入金の状況

(1) 現金及び預金の増減

(単位：千円)

科 目	期 別
	第 12 期 第 1 四半期 自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日
現金及び預金の増減額	△1,472
現金及び預金の四半期首残高	5,668
現金及び預金の四半期末残高	4,196

(主な増減理由)

当第1四半期における現金及び預金の減少の主な理由は、税引前四半期純損失による減少額 15,590 千円、たな卸資産、その他流動資産による増加額 2,358 千円、仕入債務、その他流動負債による減少額 17,914 千円、売上債権による増加額 4,219 千円、短期借入金の借入による増加額 24,000 千円等によるものであります。

(2) 短期借入金が増減

(単位：千円)

科 目	期 別
	第 12 期 第 1 四半期 自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日
短期借入金増減額	24,000
短期借入金の四半期首残高	49,000
短期借入金の四半期末残高	73,000

(主な増減理由)

当第1四半期における短期借入金の増加の理由は、株式会社国際総合ファイナンスからの借入による増加額 24,000 千円によるものであります。

V その他

該当事項はありません。

以上